



皆さんこんにちは！  
 地域おこし協力隊集落支援担当の渡辺です。  
 今月号では、人足の支援とサロン、田植え  
 体験の様子についてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当  
 わたなべ たかひろ  
 渡辺 貴洋 隊員

## 人足の支援

今年も町内の各地で農作業が始まる季節になりました。春の人足では、中町自治区だけではなく、上谷や大舟沢、梨平の各自治区に顔を出して作業をしました。今回も皆さんに声をかけてもらいながら楽しく作業ができました。

集落の皆さんと一緒に作業をしていると、至るところにイノシシが土を掘り上げた跡や掘った土で水路が塞がれている箇所がありました。また、水路の復旧工事や倒木、ごろごろした石など昨年の水害や雪害の影響を肌で感じました。



上谷地区の人足の様子

水路の清掃は、米作りや集落の環境保全に欠かせない作

業です。そのため、集落の高齢化が進み、作業の担い手が少なくなっている中でも、集落の皆さんが協力し合うことで水路の環境が維持されています。次は夏の人足(草刈り)にも参加したいと思います。

## サロンへの参加

本年度もサロン活動が始まり、今回は、縄沢集落と上谷地区に行ってきました。

縄沢サロンでは、軽沢集落の人も含め13人が集まりました。4月から11月の間で月1回行われ、今回は体操やボウリングで体を動かしました。初めてのボウリングでしたが、8、9本倒す人も多く、皆さんと楽しい時間を過ごしました。また、合間には、お互いに農作物の生育状況について相談し合うなど情報交換の場になっていました。

上谷地区では、3集落10人が集まり、映画鑑賞をしました。お茶飲み話では、クマ・イノシシの目撃情報を共有し注意喚起をしたり、地震が起



縄沢サロンの様子

きた時の避難場所について話し合ったりしました。

定期的に住民の皆さんが集まる機会があることで、お互いの安否確認になり、和気あいといと話すことが健康につながっているように思いました。これからも定期的に参加したいと思っています。

## 大学生との田植え体験

5年ほど前から中町集落の約2畝の田んぼを借りて、田植え体験を実施しています。これまででは、新型コロナウイルスの影響もあり、大

学生を招いて活動をする事ができませんでした。が、感染症法の位置づけが第5類に移行したこともあり、武蔵野美

術大学と東京藝術大学院の学生と一緒に田植え体験をすることができました。

集落の人に教えてもらい、昔ながらの「がじ」と呼ばれる道具で田んぼに十字に線を引いて、手作業で植えました。ぬかるむ足元におぼつかない様子でしたが、交流しながら楽しく植えていたようでした。

武蔵野美術大学や東京藝術大学院の学生が所属する有志団体のやどりぎ案内は、県の補助事業や委託事業を活用して本年度も中町集落で制作活動を行う予定となっております。そちらの活動もぜひご注目ください。



大学生との田植え体験の様子